

平成26年度 県議会と県民との意見交換会「あなたのそばで県議会」  
 (大島地域)における回答保留分に対する回答

<p>意見の概要</p>	<p>○ 少子化対策について              奄美の少子化対策について、子供を産む場合、産婦人科にかかるが、奄美の充足度はどれぐらいになっているのか。また、出産後、子供を育てるのにはそれなりの医療機関を利用することとなるが、(小児科は)どのような状況か。</p>
<p>対応・取り組み状況</p>	<p>1 大島地域における産婦人科の充足度について              平成24年の出生千人当たりの産科医数は、全国平均10.5人に対し、県内平均は9.5人となっている。              県内を鹿児島、南薩、川薩、出水、始良・伊佐、曾於、肝属、熊毛、大島の9つの地域ごとにみると、鹿児島の14.8人を除き、いずれの地域も県内平均を下回っているが、大島地域は鹿児島に次ぐ順位で、8.2人となっている。</p> <p>2 大島地域における小児科の状況について              平成24年の小児人口1万人当たりの小児科医数は、全国平均9.9人に対し、県内平均は7.6人となっている。              県内9つの地域ごとにみると、鹿児島の10.3人を除き、いずれの地域も県内平均を下回っており、大島地域は、鹿児島、始良・伊佐に次ぐ3位で、6.5人となっている。ただし、平成22年の5.1人と比べると1.4人増加している。</p>

<p>意見の概要</p>	<p>○ 児童虐待やいじめ等の対策について          経済の低迷に伴い貧困家庭が増加し，児童虐待，ネグレクト，いじめ，不登校問題に繋がっているのではないかと思われる。これは，女性の立場の身近な問題である。対策をどのように考えているのか教えていただきたい。</p>
<p>対応・取り組み状況</p>	<p>1 児童虐待等への対応について          本県においては，児童相談所において，虐待通告があった場合，訪問による児童の安全確認や保護者への指導を行うとともに，市町村の要保護児童対策地域協議会など関係機関と連携し，虐待の早期発見・早期対応に取り組んでいる。</p> <p>また，虐待の原因は，保護者の経済的不安や育児能力の低下，望まない妊娠等様々な要因が重なり，複雑，多様化しており，児童福祉司をはじめ，児童心理司や精神科医，保健師などの専門職が連携して，専門的かつ継続的な指導・支援を行っている。</p> <p>2 いじめや不登校への対応について          いじめへの対応について，本県では「1件でも多く発見し，それらを解消していく」という認識のもと，積極的に発見し，解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>平成25年度問題行動等調査の結果によると，いじめの態様としては冷やかしやからかいなど比較的軽微なものが多く見られており，また，不登校になったきっかけは，家庭に係る状況よりも，無気力や不安など情緒的混乱等の本人に係る状況が多いという傾向が見られる。</p> <p>これらのことから，いじめや不登校の対応については，家庭との連携を一層図り，未然防止，早期発見・早期対応に努めるとともに，スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー等と連携した対応を今後も進めていきたいと考えている。</p>